

欧州環境インサイト ニュースメール

EBSニュースメール2011年12月号

「欧州環境インサイト」ニュースメール2011年12月号をお送り申し上げます。皆様のビジネスにとって何らかのお役に立てれば幸いです。

----- ヘッドライン -----

- 【太陽光：ベルギー】カネカとIMEC、銀不使用の太陽電池を共同開発
- 【太陽熱：スペイン】アベンゴア、南アフリカで太陽熱発電プロジェクト2件受注
- 【風力：スウェーデン、ドイツ】バッテンフォール、独領北海に風力発電施設建設
- 【風力：フランス】アルストム、ブラジルに風力タービン工場開設
- 【風力：ドイツ】シーメンスと上海電気、中国で風力発電の合併2社設立
- 【風力：英国】三菱商事、洋上風力発電所向け送電インフラを取得
- 【再生可能エネルギー：EU】再生可能エネの2020年目標、達成の見込み
- 【低排出車：ドイツ】BASF、EV向けの電池関連事業を統合
- 【波力：フィンランド、スウェーデン】フォータム、スウェーデンに波力発電所を建設へ
- 【政策：英国】英政府、グリーンディール政策への意見公募を開始
- 【政策：EU】欧州委、環境保護プロジェクトの助成拡大を提案

--- ニュース -----

【太陽光：ベルギー】カネカとIMEC、銀不使用の太陽電池を共同開発

化学メーカーのカネカは11月28日、次世代半導体を手掛けるベルギーのIMECと共同で、銀を使用しない高効率ヘテロ接合シリコン太陽電池を開発したと発表した。従来使われていた銀のスクリーン印刷を銅エレクトロプレーティングで置き換えることで低コスト化を実現した。この技術をヘテロ接合シリコン太陽電池に適用するのは世界で初めてという。なお、カネカは11月24日、太陽電池モジュールの熱割れを防ぐ技術に関する欧州での特許について、ドイツの太陽電池大手Qセルズに非独占的实施権を与えることを明らかにしている。

ニュースリリース：

<http://www.kaneka.co.jp/news/n111128.html>

<http://www.kaneka.co.jp/news/n111124.html>

【太陽熱：スペイン】アベンゴア、南アフリカで太陽熱発電プロジェクト2件受注

スペインの総合エンジニアリング大手アベンゴアは12月7日、南アフリカ政府から2つの太陽熱発電プロジェクトを受注したと発表した。アベンゴアは容量50MWの集光型太陽熱発電所「Khi Solar One」と容量100MWの「KaXu Solar One」の権益51%を保有する。残り49%は政府系の開発公社IDCが保有する。これらのプロジェクトは、南アのダーバンで開催された気候変動枠組み条約の締約国会議（COP17）で南ア政府が明らかにした2030年までに1,416MWの再生可能エネルギーを開発する計画の一環。稼働後は、Khi Solar Oneで年間約18万3000トン、KaXu Solar Oneで年間31万5000トンの二酸化炭素（CO2）の削減効果がある。総事業費は約10億ユーロ。2012年の下半期に建設を

開始し、2014年の稼働を予定している。

ニュースリリース:

http://www.abengoa.es/corp/web/en/noticias_y_publicaciones/noticias/historico/2011/12_diciembre/solar_20111207.html

【風力:スウェーデン、ドイツ】バッテンフォール、独領北海に風力発電施設建設

電力大手バッテンフォールは11月25日、北海にあるドイツ最北端のジルト(Sylt)島沖に洋上風力発電施設を建設すると発表した。インフラ開発を手掛けるドイツのザントバンク・パワーから発電容量576MWの風力発電施設「Sandbank 24」の開発ライセンスを取得した。同施設には当初96基の風力タービン設置が予定されているが、将来的には更に40基を追加設置することが可能で、完成すると50万世帯以上の電力需要を賅うことができる。建設予定地は、バッテンフォールが100億クローナ(14億3,200万ドル)を投じて建設を進めている風力発電施設「Dan Tysk」に隣接しており、着工は「Dan Tysk」完成後の2014年以降となる予定。なお、バッテンフォールは12月5日、ドイツ北東部ブランデンブルク州で計画していたCO2回収・貯留(CCS)技術の実証プロジェクトを中止すると発表した。同技術に対する法的な受け皿が整わないことを理由に挙げている。

ニュースリリース:

<http://www.vattenfall.com/en/press-details-hidden.htm?newsid=2025E9ADBCAE4130A3054E9769F52DA1>
<http://www.vattenfall.com/en/press-details-hidden.htm?newsid=7217C9BD4BC04D8CBC7F55B5DE07505E>

【風力:フランス】アルストム、ブラジルに風力タービン工場開設

仏重電大手アルストムは11月30日、ブラジル北東部バイア州のカマサリ(Camacari)工業団地に風力タービン生産工場を開設した。風力発電関連施設を南米に設置するのは初めて。総敷地面積5万平方メートル、建物占有面積1万平方メートルの新工場の年間生産能力は300MWで、初期投資額は2,000万ユーロに上る。アルストムは再生可能エネルギー技術の強化と開発途上国への投資を加速させる計画を打ち出しており、ブラジルでは工場設立に先立ち、2件の風力発電プロジェクトを受注している。なお、アルストムは水力発電市場では世界最大手で、世界の発電容量の約25%、ブラジルでは約40%のシェアを占めている。

ニュースリリース:

<http://www.alstom.com/news-and-events/press-releases/alstom-opens-a-new-wind-turbine-plant-in-Brazil-its-first-wind-facility-in-Latin-America/>

【風力:ドイツ】シーメンスと上海電気、中国で風力発電の合弁2社設立

独総合電機大手シーメンスは12月9日、中国の電機大手の上海電気と合弁で、風力発電設備の合弁会社2社を設立することで合意したと発表した。風力タービンなど設備の研究開発(R&D)および製造を手掛ける会社と、販売・マーケティングを専門とする会社で、出資比率はいずれもシーメンスが49%、上海電気が51%となる。今回の合弁会社設立は、シーメンスが風力発電市場で世界首位を目指す戦略の一環。中国の風力発電設備の累積導入容量は40GW以上で、政府は2020年までにこれを150GWまで引き上げる目標を掲げている。2009年から2010年の年間設置容量は約30%伸びている。シーメンスは近年、中国での事業拡大を進めており、16の研究開発センター、69の事業運営会社、64の支社を保有している。2011年には上海電気と共に洋上風力発電所を受注している。

ニュースリリース:

http://w1.siemens.com.cn/news_en/news_articles_en/1904.aspx

【風力:英国】三菱商事、洋上風力発電所向け送電インフラを取得

三菱商事は12月2日、オーストラリアの投資銀行マッコーリー・キャピタルから英国の洋上風力発電所向け海底送電インフラ資産「ウォルニーワン(Walny1)」の権益50%を取得したと発表した。残り50%はパークレイズ・インフラストラクチャー・ファンド・マネジメントが保有する。ウォルニーワンは、東アイリッシュ海にある発電容量184MWの洋上風力発電

施設とイングランド北西部ランカシャー海岸を結ぶ全長50キロメートルの送電線および洋上変電設備からなり、1億540万ポンドの資産価値がある。三菱はバークレイズと共同で、向こう20年間にわたりこれら設備を保有・運営する。日本企業が国外で海底送電インフラに関わるのは初めて。三菱は昨年7月に発表した中期経営戦略に基づき今後も欧州で海底送電インフラ事業を展開していく方針で、英国で後続案件への参画を目指す。

ニュースリリース:

<http://www.mitsubishicorp.com/jp/ja/pr/archive/2011/html/0000013446.html>

【再生可能エネルギー:EU】再生可能エネの2020年目標、達成の見込み

欧州環境庁(EEA)は11月28日、欧州連合(EU)加盟各国が提出している再生可能エネルギー行動計画(NREAP)を基に分析した結果、2020年までに再生可能エネルギーで電力需要全体の20%を賅うというEU目標を達成できるとの見通しを明らかにした。これによると、各国の行動計画が予定通り実施された場合、2010年から2020年までの10年間に、欧州の洋上風力発電容量が17倍に拡大するほか、比較的新しい再生可能エネルギーとして注目される海洋エネルギー(波力・潮力)と、集光熱型太陽熱発電(CSP)も11倍に膨らむ。普及の進んでいる太陽光発電や陸上風力発電でも、それぞれ、3倍、2倍に達する見通しという。2009年に再生可能エネルギーが電力需要全体に占めた割合は11.7%だった。

ニュースリリース:

<http://www.eea.europa.eu/highlights/massive-renewable-energy-growth-this>

【低排出車:ドイツ】BASF、EV向けの電池関連事業を統合

化学大手BASFは11月23日、電気自動車(EV)向けの電池関連事業を1部門に統合する計画を明らかにした。同社は2012年1月より、陰極材料開発に注力する触媒部門、電解質の生成を手掛ける中間体部門、現在フューチャー・ビジネス部門に配属されている次世代リチウム電池関連事業を「電池素材」部門にまとめる。電池素材の研究・開発(R&D)や生産に向こう5年間で数億ユーロを投じる方針で、次世代リチウムイオン電池を含むEV向けの電池事業に力を入れる。また、EV向けの電池供給を迅速化させるため、米オハイオ州に生産拠点を建設する計画を明らかにしている。

ニュースリリース:

<http://www.basf.com/group/pressrelease/P-11-516>

【波力:フィンランド、スウェーデン】フォータム、スウェーデンに波力発電所を建設へ

フィンランドの電力大手フォータムは12月9日、スウェーデンの波力発電設備メーカー、シーベースト(Seabased)と共同でスウェーデン南西部のソテナス(Sotenas)に容量10MWの波力発電所を建設することで合意したと発表した。総プロジェクト費は2,500万ユーロで、半額をフォータムが拠出する。シーベーストはリューセヒール(Lysekil)に工場を建設し、2012年前半にブイや発電装置などの製造を開始し、来年内に42基のブイ型波力発電装置の設置を目指す。1年間の調査期間を経て第2期に着手し、0.5平方キロメートルの海域に420基の発電装置を設置する。2014~2015年に完成する予定で、世界最大級の波力発電所となる。

ニュースリリース:

<http://www.fortum.com/en/mediaroom/pages/fortum-and-seabased-ab-to-start-construction-of-a-wave-power-park-in-sweden.aspx>

【政策:英国】英政府、グリーンディール政策への意見公募を開始

英国のヒューン・エネルギー・気候変動相は11月23日、2011年の年次エネルギー声明の中で、建物のエネルギー効率化を促進する「グリーンディール」政策の概要を明らかにし、意見公募(コンサルテーション)を開始した。2012年10月から実施が予定されているグリーンディールは、民間企業や個人が初期投資なしで断熱工事などのエネルギー効率改善措置を講じることができる仕組み。利用者はエネルギー料金(電力とガス)上乘せの形で長期的にローンを返済するが、断熱措置に伴う料金の節約額が、ローン返済額を上回ると見られている。DECCはこれにより、今後10年間で140億ポンドの民間投資を促すことができるほか、2015年までに同分野で6万5,000人以上の雇用創出が可能としている。また、家庭における

平均エネルギー料金は、2020年までに7% (94ポンド) ほど低下する見通しという。DECCは今回、グリーンディール利用者に最大150ポンドの現金還元を行う措置や、低所得層の住宅や断熱施工ができない建物等に対しエネルギー企業から年間13億ポンドの追加支援を行う措置を併せて打ち出している。

ニュースリリース:

http://www.decc.gov.uk/en/content/cms/news/pn11_096/pn11_096.aspx

【政策:EU】欧州委、環境保護プロジェクトの助成拡大を提案

欧州委員会は12月12日、域内の環境保護プロジェクトを助成するLIFEプログラムの第5期目(2014年~2020年)に32億ユーロを充て、助成対象を拡大する提案を発表した。気候変動分野の下位カテゴリーを創設し同分野への助成金を約3倍に膨らませるほか、国全体や特定地域などを対象とする広域プロジェクトへの助成を強化する方針だ。同提案は欧州理事会と欧州議会の審議・承認を経て施行される。LIFEプログラムは自然保全や気候変動、環境政策、環境教育・コミュニケーション分野を対象とした域内プロジェクトの財政支援を目的に1992年に創設された。同プログラムの第4期目(2007年~2013年)の総予算は21億4,300万ユーロだった。

ニュースリリース:

<http://europa.eu/rapid/pressReleasesAction.do?reference=IP/11/1526&format=HTML&aged=0&language=EN&guiLanguage=en>

◆◆◆「EBSインサイトレポート」 2011/12年版 好評発売中! ◆◆◆

◎「欧州の環境市場と環境規制 2011-12年版」(約150ページ) 10月20日発売



サンプルページは画像をクリック!

風力発電など一部では2010年に減速感が表れたものの、欧州環境市場の長期的な成長トレンドに変わりはない。低炭素社会への移行に伴い、再生可能エネルギーを中心に息の長い市場拡大が続くと期待される。脱原発を決めたドイツは、従来以上に再生可能エネルギーの利用を促進する方針だ。本レポートは最新の統計データを中心に、欧州環境市場の動きをまとめると同時に、市場拡大の担い手である先進企業100社について、その戦略と最新動向を紹介する。

また、環境市場の動向に大きな影響を与えているのが規制の枠組みだ。2050年までに低炭素経済を構築することを目指すEUの環境規制は、気候変動政策の枠組みだけでなく、今後の資源効率政策によって広範な産業に影響を及ぼす可能性が出てきた。企業にとって制約であると同時に成長のチャンスでもあるEUの環境規制について、過去1年間の新たな規制と今後ウォッチしておきたい協議中の規制の最新動向を解説する。

主な内容

環境市場と先進企業100社(約90ページ)

- 欧州の先進環境企業100社の戦略と最新動向
- 欧州環境市場規模の推移
- 太陽光発電市場の2010年実績と今後の成長見通し
- 風力発電市場の2010年実績と成長見通し
- 各国政府の支援制度の動向
- 分野別の成長予測

環境規制動向(約60ページ)

- 2050年の低炭素経済構築に向けたロードマップ
- 原料戦略と資源効率ロードマップの見直し
- エネルギー効率指令案の概要
- エコデザイン指令の動向
- EU排出権取引の制度動向と炭素リーケージ
- 自動車(乗用車、バン、トラック)のCO2排出規制と乗用車エコイノベーション規則
- スマートシティ/コミュニティの促進
- 過去1年間の主要規制の改正動向
 - WEEE・RoHS指令、廃車指令、REACH、エネルギーラベル
- 留意したいその他の主要規制の今後の動向
 - Fガス規則の改正、エネルギーインフラ・プロジェクト支援に関わる規制、エネルギー税新指令 など

価格(PDF・全税別) : 680ポンド/780ユーロ/89,000円

サンプルページはこちら ⇒ http://www.ebsukltd.com/report/pdf/sam_env2011.pdf

レポートのご購入はこちら ⇒ <http://www.ebsukltd.com/report/index.html#link4>

◎「欧州エコカーの市場と戦略 - 欧州自動車産業 2011-12年版」(約100ページ) 10月3日発売



画像は 2011-12 年版です。

サンプルページは画像をクリック！

欧州の自動車市場は大きな転換期を迎えている。ロシア市場や中東欧の一部を除けば規模の成長は頭打ちとなったものの、今や欧州から世界の今後の自動車産業を塗り替えるトレンドが生まれている。厳しい環境規制や様々な産業を巻き込む環境技術、激化する自動車各社の競争を背景にエコカーとエコカーを支える社会基盤が広がりを見せてきた。本レポートでは欧州のエコカー市場とそれを支える環境規制や基盤の最新動向をとらえ、欧州を舞台とした各社の戦略と市場の今後の見通しを明らかにする。また、欧州以外でも主要乗用車メーカーが世界各地で導入を予定しているエコカーをまとめた。さらに、ロシアを含めた欧州自動車の市場・業界全般の過去1年の動きについて、販売・生産統計や各社の展開を中心に網羅する。

主な内容

- 欧州のエコカーと自動車市場をめぐる重要トレンド
- エコカー市場を支えるEUの規制と環境政策
- 電気自動車はじめ欧州エコカー市場の現状と見直し
- 主要乗用車メーカーの欧州を中心とした展開とエコカー戦略
- 各社が世界で今後導入を予定しているエコカーの一覧
- メーカー別の欧州の乗用車・商用車販売統計
- ロシアの自動車販売動向と市場の見直し

価格(PDF・全税別) : 480ポンド/550ユーロ/63,000円

サンプルページはこちら ⇒ http://www.ebsukltd.com/report/pdf/sam_auto2011.PDF

レポートのご購入はこちら ⇒ <http://www.ebsukltd.com/report/index.html#link4>

◎「躍進するインドの産業 -インフラ・自動車・エネルギー」 (約100ページ)

8月1日発売

力強い成長を続けるインド経済。本レポートは経済と投資環境に関するマクロ情報のみならず、自動車に加え再生可能エネルギー、鉄道、道路など注目を集めるインフラ産業の最

新動向と見通しを解説。インドに進出済みの企業はもちろん、これから進出を目指す企業にとっても役に立つ情報を満載した。

主な内容

- インドの経済・投資動向と日系企業の進出状況
- 日印CEPAとインドのFTAの動向
- 成長のカギを握るインフラ整備の現状と主要セクターの動向、主要プロジェクト
- 自動車の販売市場、生産の現況と今後の見通し
- 自動車部品の販売動向と見通し
- 政府の自動車関連の政策
- インドにおける乗用車メーカー各社の最新動向
- 需要急増するエネルギー：エネルギー分野の状況
- 再生可能エネルギー分野（風力発電、太陽エネルギー）の現状と可能性
- 石炭・ガス火力発電の動向

価格(PDF・全税別) : 18,000ルピー／250ポンド／280ユーロ／1,500AED／
500シンガポールドル／33,000円(全税別)／410米ドル

サンプルページはこちら ⇒ http://www.ebsukltd.com/india/pdf/sample_india%20report%202011.pdf
レポートのご購入はこちら ⇒ <http://www.ebsukltd.com/india/index.html#a2>

◆◆当ニュースメール配信サービス希望者募集中！◆◆-----

- 当配信サービスは無料です。どなたでもホームページからご登録いただけます。
 - 配信頻度は基本的に毎月ですが、都合により不定期になることをあらかじめご了承ください。
 - 本サービスは弊社の都合により休止することがあります。
- ご登録はこちら ⇒ <http://www.ebsukltd.com/newsletter/>

◆◆当サービスのご利用に当たって◆◆-----

- ★登録内容の変更や配信停止はお手数ですが下記からお願い致します。
<http://www.ebsukltd.com/newsletter/>
- ★ニュースメールに関するお問い合わせ、その他ご利用に際してのご不明点は下記へご連絡下さい。
news@ebsukltd.com

発信元◇EBS(UK)Ltd.
1 Heathcock Court, 415 Strand, London WC2R 0NT, UNITED KINGDOM
ウェブ: <http://www.ebsukltd.com/> メール: news@ebsukltd.com

Copyright(C) EBS(UK)Ltd. 2011 掲載記事の無断転載を禁じます。
